

# ここちゃんと防災

～ “ここ” から “ちゃんと” そなえよう～



今月のテーマ

## 「冬の備え」

2021年12月 vol.2

作：川崎裕美(宇部地域理事/防災士)

災害は季節を問わずやってきます。

もし冬に災害が発生した場合、寒さが続くと体温が低下し、体力が奪われて感染症などにも罹りやすくなったり、判断力が低下したりして、最悪の場合は命を落としてしまう恐れがあります。

あなたの家の防災グッズは、いつ用意したものでですか？防災グッズは「一度そろえたから大丈夫！」ではなく、使用期限や子どもの成長、季節にあわせて見直していくことが大切です。

01

### 冬用タイヤに履き替えておこう

大雪のときは、不要不急の外出を控えることが基本です。また、雪予報が出ているときは極力車の利用は控えましょう。やむを得ない場合は、事前に必ず冬用タイヤに履き替えておくことが大切です。雪道に慣れていない人が車を運転するのは、自分だけではなく、周囲にも危険を及ぼす可能性が高くなります。

02

### 靴の滑り止めを用意しよう

雪が降った日の翌朝は路面が凍結し、車だけではなく歩行者も危険です。滑って大けがをする前に、簡易的な靴の滑り止めを用意しておく安心です。革靴やブーツなどにも簡単に取り付けられるものも販売されています。

03

### 寒さ対策を忘れずに

山間部のみならず、都市部でも十分に可能性があるのが、電線への着雪による停電です。夏の停電時には必要のなかった「寒さへの対策」も重要になってきます。冬の停電に備えて、防寒具・使い捨てカイロ・石油ストーブなど、電力に頼らない暖房器具を用意しておきましょう。

04

### 火災に注意

冬は、暖房器具の利用や乾燥した気候、強風により、一旦火災が発生すると延焼拡大するなど、火災のリスクが高まる季節でもあります。使い慣れていないカセットコンロやストーブの扱いには注意しましょう。また、停電中に灯りをとるためのろうそくで火災が発生する恐れがあります。子どものやけどなどのリスクもあるため、灯りは「LED ランタン」や「懐中電灯」をおすすめします。



05

### 一酸化炭素中毒に注意

暖をとるために使用した七輪や発電機による一酸化炭素中毒の事故も発生しています。しっかりと換気し、屋外用器具は室内では使用しないようにしましょう。



災害への備えは「特別なこと」として取り組むのではなく、生活の中で当たり前のこととして取り組むことが大切です。